

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名

富山県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	宇奈月町立宇奈月中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数 16
学級数	2	2	2	1	7	
生徒数	64	68	57	1	190	

研究の概要

1 研究主題

生徒一人一人に「確かな学力」をつけるための指導方法はどうあればよいか。

2 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

第1学年：数学

入学の時点で、生徒の基礎的な学力に差があることが予想されるため。

第2学年：英語

生徒の理解の程度に差が出やすい教科、学年であるため。

第3学年：国語

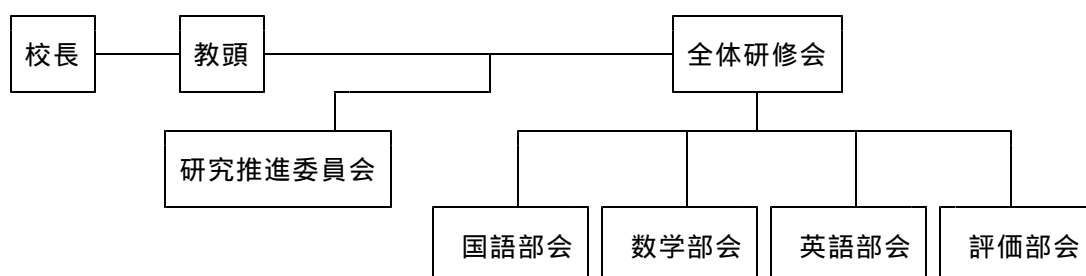
新しい観点に対応した学力を生徒につけてやれるようにするため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着を図るための少人数指導のあり方はどうあればよいか。</p> <p>研究の見通し 習熟度を意識した少人数授業を行い、分かる授業を目指すことにより、生徒の学習意欲を高め、基礎的・基本的な学力の定着を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数授業の実施 第1学年：数学、第2学年：英語、第3学年：国語で、すべての時数において、1学級を2つのグループに分けた少人数授業を行う。グループは習熟度別指導を意識したもので、基礎コース、応用コースとする。単元のはじめにガイダンスを行いそれぞれのコースの学習の進め方を教師が説明し、生徒の希望によりコースを決定する。 ガイダンスのもち方やそれぞれのコースの学習の進め方については、教科担当の教師が常に打ち合わせを行い、生徒にとって分かりやすい授業、学習意欲の高まる授業展開、きめ細かい指導を心がける。 学力向上の検証の研究 年度の始めと終わりに、第1学年は数学、第2学年は英語、第3学年は国語の教研式標準学力検査CRT（目標基準準拠検査、以下「CRT」と称す）を実施し、その結果をどのように学力向上とその検証に生かしていけばよいかを研究する。 その他、中教研学力調査の結果などから学力向上の検証ができないか研究する。
--------	--

平成 16 年 度	<p>テーマ 生徒一人一人の学力向上のための指導や支援の方法はどうあればよいか。</p> <p>研究の見通し 少人数授業の継続的实施のほか、学習指導計画や授業の改善、学習のつまづきのある生徒への個別の対応などを通して、「確かな学力」の向上を図ることができる。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業におけるより効果的な指導 ・ 校内検定の実施（漢検・英検等を参考にしながら校内で検定基準を設ける）による学びの機会の充実 ・ 学習の遅れている生徒への個別指導 ・ 保護者や小学校との連携
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

少人数授業の効果について

- ・ 少人数授業における生徒の反応は、「分かりやすい」「質問がしやすい」という声が多く、好評である。調査によると、「少人数授業がそうでない授業より分かりやすい」と答えた生徒は、全校生徒の70%に達している。
- ・ コースの選択については、全校の65%の生徒が自分にあったコースを選択できていると感じている。
- ・ 第2・3学年において授業内容が理解できないと感じている生徒の割合は、少人数授業を実施していなかった昨年度と比べて、第2学年が25%から18%に、第3学年が26%から14%にそれぞれ減っている。

CRTの実施について

- ・ CRTを実施した結果、観点別、領域別に学力の落ち込みがどこにあるかを調べることができた。今後、この結果をもとにバランスのよい学力の形成をするための学習計画の工夫をする。

学習に関する実態の把握について

- ・ 授業への関心、理解度、学校や家庭での学習状況等について調査し、ある程度生徒の学習に関する状況や課題を把握することができた。平成14年度行った調査（ほぼ同じ内容のもの）と比較することにより、教科に対する関心や理解度の推移を検証することができた。

2 今後の課題

少人数授業におけるより効果的指導について

- ・ 習熟度を加味した少人数授業は基礎的・基本的な学習内容の指導には効果的であることが分かったが、多様な見方や考え方を身に付けさせたい場合においては課題が残ることが明らかになってきた。

今後、学習内容によって少人数授業とチームティーチングを使い分けたり、少人数授業のグループ編成も習熟度別以外の方法も検討したりしていく必要がある。

学習の遅れている生徒への個別指導

- ・ 授業の中で学習につまづいている生徒への対応が、今年度は十分にできなかった。授業の質的な向上を図るとともに、学習のつまづきの診断と手だて、放課後の補習、長期休業中の補習など学校全体として取り組む体制の確立に取り組んでいきたい。

保護者や小学校との連携

- ・ 学習の遅れが目立つ生徒の多くは、家庭での基本的な学習習慣が身に付いていない場合が多い。発達段階に応じて望ましい学習習慣を身に付け、基礎的・基本的な内容を十分に理解することができるよう、小学校との連携や家庭への働きかけなどを検討していきたい。

学力把握のための学校としての取組

教研式標準学力検査CRT（目標基準準拠検査）の実施

- ・ 学力の現状を把握し指導計画の改善に資するために2月に実施する。なお、学力向上の検証の方法としてCRTの問題とほぼ同じ内容の問題を作成し、その結果をもとに判断する。

学習実態調査の実施

- ・ 授業への関心、理解度、学校や家庭での学習状況等を把握するために、毎年度11月に実施している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

授業参観や通常訪問研修の公開

- ・ 授業参観日や通常訪問研修における授業を町内の4小学校の先生方に公開し、授業に対する意見の交換を行っている。

次の項目ごとに該当するところをチェックすること。

- | | |
|----------------------|----------------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 |
| 【学校規模】 | 7～12学級 |
| 【指導体制】 | 少人数指導 T・Tによる指導 |
| 【研究教科】 | 国語 数学 英語 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 |